久慈に眠る太古の軌跡
琥珀と恐竜の大地

昭和初期に採掘された久慈産琥珀大団塊

琥珀ってなあに？

久慈の「顔」ともいわれる琥珀。いろいろな場面で見る機会もありますが、琥珀って何なのかご存知ですか？

琥珀とは、数千万年から数億年前、地上に繁茂していた樹木の樹脂が土砂などに埋もれて化石化したもので、いわば「樹脂の化石」。世界最古の琥珀は約3億年前のもので、イギリスのノーサンバーランドなどで発見されています。

琥珀のもとになった樹木は、広葉樹から針葉樹までさまざまあり、琥珀の色は時代や産地によって黄・茶・赤・白・青・緑・黒など約250色あるといわれています。

久慈は琥珀の産地

久慈は日本随一の琥珀の産地ですが、琥珀は日本以外にも世界各地で見つかっています。主な産地は、久慈市の姉妹都市であるリトアニア共和国クライペダ市があるバルト海沿岸や中国、ドミニカ共和国などが有名。ぜいたくな装飾品として取り引きされたほかに安産のお守りや厄除けとして身に着けられていました。

久慈の琥珀は、古墳時代には既に奈良地方へ運ばれていたことが遺跡出土品の化学分析で解明されています。この琥珀と琥珀が出土した遺跡を結ぶルートは、琥珀の道「アンバー・ロード」や「アンバー・ルート」と呼ばれています。

琥珀と恐竜の関係

琥珀の生まれた時代は、産地によって異なります。中には恐竜が生きていた時代に生まれたものもあります。久慈地方で産出される琥珀は、中生代白亜紀後期の約8500万年から9000万年前のもので、まさに恐竜と同じ時代を過ごしていました。久慈琥珀博物館の琥珀採掘体験場からは、琥珀以外にワニやカメの化石が見つかっていましたが、昨年7月に翼竜の化石が発見されました。国内6例目の発見で、大きさは国内最大級。3月には竜脚類の化石が見つかるなど、久慈地方の地層には琥珀と恐竜が今でも一緒に眠っているのです。

日本有数の琥珀産地である久慈。その琥珀が眠る8,500万年前の地層から、昨年７月に翼竜の化石が、今年３月には竜脚類の化石が相次いで発見されました。同じ時を経て、私たちの前に太古の軌跡を伝える琥珀と恐竜。今回は琥珀と恐竜にスポットを当てます。

恐竜と琥珀の地質年代関係

紀		年代		主な恐竜	琥珀の産地（地層の年代）
三畳紀	後期	約2億3千万年前～	恐竜が発展し始める	プラテオサウルス	
ジュラ紀	前期	約1億9千9百万年前～	環境に合わせ進化	ブルカノドン	
	中期	約1億7千6百万年前～		プラケラトサウルス	
	後期	約1億6千百万年前～		**アロサウルス**	
白亜紀	前期	約1億4千5百万年前～		プロトケラトプス	
	後期	**約9千9百万年前～**		ティラノサウルス **ティタノサウルス**	**久慈（8千5百万年前）**
古第三紀		約6千5百万年前～	恐竜が絶滅する		リトアニア（約4千万年前） 中国（約4千万年前） ドミニカ共和国（約3千万年前）
新第三紀		約2千3百万年前～			
第四紀		～現在			